

「菜の花」と「小松菜」の関係

菜の花は身近な春の光景として親しまれています。
菜の花や 月は東に日は西に

一般的に菜の花というと春に咲く黄色い花を思い浮かべますが、

じつは菜の花はアブラナ科の黄色い花の総称で、1種だけを限定する名称ではありません。

一般に菜の花って言われているのは【アブラナ】です。道端で良く見
るのもきつと【アブラナ】です。

アブラナによく似ている花は【小松菜】、【アスパラ菜】、【白菜】、【葉
牡丹】、【カブ】、【寒咲き花菜】などがあります。
キャベツや大根も同じアブラナ科の植物です。



アブラナの花壇(浜離宮)

青果業界では「菜の花」は主に花、つぼみを食べるもの。
「なばな」は、主に葉や茎を食べるもの。という感じで分類してい
ます。

通常、小松菜は葉と茎を食べるので花がつく前に収穫してしま
いますから、ほとんど小松菜の「菜の花」は市場に出回りません。
写真の「菜の花」は小松菜の一部を収穫せずに「菜の花」になる
まで待って収穫したものです。



小松菜の「菜の花」

「小松菜の菜の花とにんにくのオリーブオイルいため」
小松菜の「菜の花」もまったくせがなく柔らかく美味しい。普通
「菜の花」と言えば、ほろ苦さがあって大人の味みたいところが
ありますが、小松菜の「菜の花」はくせがなく4歳とか10歳位の子
供でも食べられます。

小松菜はアブラナの変種

江戸時代に8代将軍徳川吉宗が鷹(たか)狩りで小松川(江戸川区)を訪れた際、すまし汁に入った青菜を気に入り、
地名にちなんで命名したと伝わっています。

もともとは冬の野菜で、正月の雑煮によく使われました。
年に何度も栽培でき、都内では江戸川、葛飾、足立区などで盛んに作られています。